

発達障害のある子どもをもつ 父親を対象とした子育て支援講座のあり方

中田 美郁¹⁾・和田 充紀²⁾

A Study of Childcare Support Course for Fathers Raising Children with Developmental Disabilities

Miku NAKADA & Miki WADA

発達障害の子どもをもつ父親を対象とする子育て支援講座を、放課後等デイサービス事業所と連携し、「ぽかぽか父親講座」の名称で実施した。親子遊びや親子クラフト、親子クッキング等の親子活動に加えて、父親を対象とするセミナーとカフェ形式の座談会を計画して開始したが、新型コロナウイルス感染拡大により、クラフトとクッキングは各家庭での実施に計画を変更して行った。参加した父親からは、父親同士で話すことで孤独感が減少し、知りたい情報を得ることができたという成果が得られた。また、もっと時間をとって話をしたい、より詳しい情報を得たいなど、子育てについて考えるきっかけとなる父親同士の交流や、子どもとの接し方のヒントを得るための父親を対象とする講座への期待や要望があげられた。父親のニーズに応じた内容の選定や継続的な子育て支援講座の実施が望まれる。

キーワード：発達障害、子育て支援、父親講座

Key words：Developmental Disabilities, Childcare Support, Father Lectures

I. 問題と目的

近年、日本の社会においては、父親の積極的な育児参加を求める声が高まっている。内閣府の世論調査によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について「反対」と答えた者の割合が、1992年は34.0%（「どちらかといえば反対」24.0%+「反対」10.0%）、2014年は49.4%（「どちらかといえば反対」33.3%+「反対」16.1%）、2019年は59.8%（「どちらかといえば反対」36.6%+「反対」23.2%）となっている。2019年の調査では「反対」が約6割を占めており、年々、男性の育児参加への意識が高まっていることが伺える。また、2010年6月に開始された「イクメンプロジェクト」や、2010年・2017年の「育児・介護休業法」改正により導入された「パパ・ママ育児プラス」、「パパ休暇」など、行政による父親の育児参加を促進する取り組みもなされてきた。

しかし、このような取り組みがなされる一方で、デッ

カーら（2015）は、父親自身も役割行動を担おうとするが、実際には父親役割に戸惑い、育児に関われないストレスを感じているということを示している。その上で、父親の育児参加を促進するためには、男性に向けた子育てに対する教育支援を構築する必要があると述べている。

そして、このような父親の育児参加をサポートするための子育て支援講座は、近年増加傾向にある。冬木（2006）は、静岡市の自治体が主催した「父親教室」における、父親の内面の変化について研究を行った。その結果、親が「父親教室」に参加することによって、親としての自分をふりかえる機会となり、子育てや子どもに対して前向きな気持ちをもつようになることを示した。また、吉岡（2009）は、市民団体「さっばろ子育てネットワーク」が行う「父親講座」での父親の学習過程と意識変容を分析した。そして、学習者である父親と学習を組織し推進する親が共に学び合う形での話し合い学習が、乳児期・思春期の子育て観や子育てと仕事の問題への問い返しにつながる契機となったことを明らかにした。さらに、小山ら（2017）は、

1) 元富山大学人間発達科学部

2) 富山大学人間発達科学部

広島県で行われた「パパ・ママと共につくる育児講座」の参加者から得られた語りから、育児講座の実態について調査を行った。その結果、ふれあい遊びの中で、複数の父親から「こんな子どもの表情を見たことがなかった」、「こういう遊びでこんなに喜ぶんだ」、「この遊びは使える」という語りが得られたことを示した。これらの研究により、父親向け子育て支援講座は、父親の育児参加の促進に効果があることが明らかになっている。

しかし、これらの父親向け子育て支援講座は、そのほとんどが健常児の父親を対象としたものである。小島ら(2007)は、発達障害における家族支援の対象は母親に偏っており、父親への支援については実践的にも研究的にも少ないという現状があることを指摘している。

また、障害児育児における父親の役割についての研究を行った藤井ら(2012)は、障害児の父親は、家庭内における役割から社会の中における障害児の父親としての役割まで、幅広い役割を同時に求められており、背負っている負担はかなり大きいものであるとしている。さらに課題として、障害児育児の中で、障害児自身や母親と同じように苦しんでいる父親たちを、精神的にも制度的にも、サポートできる環境を整えることの重要性をあげている。このことから、障害のある子どもの父親も健常児の父親と同等あるいはそれ以上の子育て支援を必要としていると考えられる。

父親を対象とした子育て支援講座の実践においては、様々な面において効果が実証されており、障害のある子どもの父親にとって子育て支援が重要であることも明らかになっているにもかかわらず、障害のある子どもを持つ父親を対象にした子育て支援講座について検討した研究は極めて少ない。

そこで、本研究では発達障害のある子どもの父親を対象とした子育て支援講座の効果とそのあり方について検討することを目的とする。講座の実践研究およびアンケート調査により、検証を行う。

II. 方法

20XX年12月～20XX+1年9月にかけて計4回の「父親講座」実施し、毎回の講座後にアンケートを行った。また、父親講座において父親同士の会話や、父親と子どもがふれあう様子を観察・記録した。

1. 対象

父親講座に参加したT県内にある放課後等デイサー

ビスに通う発達障害のある子どもの父親13名

2. アンケート内容

講座後のアンケートは、以下の内容で構成した。

- ・回答者のフェイス項目
- ・父親講座への参加理由について
- ・父親講座への満足度について
- ・父親講座後の気持ちについて
- ・父親講座の内容の家庭における継続について
- ・自由記述
- ・家庭での実施の様子(第3・4回のみ)

3. 分析方法

各回に参加し、アンケートへの回答があったものを対象として分析を行った。

得点は平均や割合を算出して分析を行った。

4. 父親講座の概要

(1) 手続き

20XX年11月に、放課後等デイサービス事業所2か所において、父親講座について広報を行った。広報手段については事業所に依頼し、20XX年12月に父親講座の参加希望を集約した。

(2) 実施計画

4回の講座の実施時期や講座名、内容等について、表1に示す。

表1 父親講座の概要

回数	開催日時	講座名	内容	参加人数
1	20XX年 12月22日(日) 10:00～11:00	ほかほか父親講座 セミナー&パパの思いをシェアしよう	・自己紹介を行う。 ・それぞれが目指す父親像について話す。	6名
2	20XX+1年 2月9日(日) 10:00～11:00	ほかほか父親講座 親子遊びワークショップ	・家庭でも実践できるような親子遊びを行う。 ・20分程、父親同士が交流する時間を設ける。	8名
3	20XX+1年 3月22日(日)予定 (20XX+1年8月に 変更して実施)	ほかほか父親講座 クラフトワークショップ	・どの年齢でも楽しめるよう、難易度別のクラフトを用意し、親子で一緒に取り組む。	5名
4	20XX+1年 3月22日(日)予定 (20XX+1年8月に 変更して実施)	ほかほか父親講座 パパッとクッキング	・三色丼、即席みそ汁、フルーツゼリーを親子でつくる。	6名

※新型コロナウイルスの拡大を受けて、第3回・第4回の父親講座の内容を対面型から各家庭で実施する形式に変更した。クラフトの材料やクッキングのレシピは、20XX+1年8月上旬に各家庭へ郵送し、アンケートの回収期限を20XX+1年9月末日とした。

(3) 父親講座参加者についての基本情報

父親講座の参加者に関する基本情報を表2に示す。

表2 父親講座参加者

	保護者の年代	子どもの学年	子どもの性別	参加希望			
				第1回	第2回	第3回	第4回
A	40代	高3	男	○	○	○	
B	40代	中2	男			○	
C	40代	中1	男	○	○		○
D	40代	小5	男		○		
E	40代	小5	男				○
F	40代	小5	男				○
G	30代	小4	男				○
H	40代	小3	男	○	○	○	
I	30代	小2	男	○	○		
J	40代	小1	男	○	○		○
K	50代	小1	男		○	○	
L	30代	年中	男	○	○	○	
M	40代	年少	男				○

5. 倫理的配慮

保護者および各事業所の責任者に対して、目的を口頭・文書で説明し、承諾を得た上で参加を求めた。

Ⅲ. 結果

1. アンケート結果

講座の参加者は第1回が6名、第2回が8名であり、参加者全員からアンケートへの回答が得られた。

第3回と第4回は、参加希望者に各活動の材料与事後アンケート用紙を送付し、アンケートの回答については郵送による返信を求めた。結果、第3回は5名中3名、第4回は6名中3名からの回答が得られた。

(1) 「父親講座」への参加理由について

参加理由は8項目とその他から複数回答可で選択する形式をとった。

第1回の参加理由は、「他の父親と交流してみたいと思ったから」、「家族にすすめられたから」が6名中4名(66.7%)であり、次いで、「父親の役割を知りたいと思ったから」、「子どもとの関わり方を知りたいと思ったから」が6名中3名(50%)であった。

第2回は、「子どもとの関わり方を知りたいと思ったから」が8名中6名(75%)であり、次いで、「今回の講座内容に興味があったから」、「他の父親と交流してみたいと思ったから」が8名中5名(62.5%)であった。

第3回は、「今回の講座内容に興味があったから」、「子どもとの関わり方を知りたいと思ったから」が3名中3名(100%)であり、次いで、「他の父親と交流して

みたいと思ったから」、「子どもの育ちについて知りたいと思ったから」、「家族にすすめられたから」、「子育てに役立つ情報を得たいと思ったから」、「子育ての悩みがあったから」が3名中2名(66.7%)であった。

第4回は、「家族にすすめられたから」が3名中2名(66.7%)であり、次いで、「他の父親と交流してみたいと思ったから」、「子どもとの関わり方を知りたいと思ったから」が3名中1名(33.3%)であった。

講座を通して、「子どもとの関わり方を知りたいと思ったから」、「他の父親と交流してみたいと思ったから」、「家族にすすめられたから」を参加理由として選ぶ回答が多かった。

(2) 「父親講座」の満足度について

満足度は「満足」から「不満足」の5段階を5点～1点として各回の平均を算出した。第1回が4.5点、第2回が4.6点、第3回が4.3点、第4回が3点という結果になった。

(3) 「父親講座」後の気持ちについて

各回の講座終了直後の気持ちについては、「子育て意識」、「子どもとの関わり」、「父親同士の交流」の3つのカテゴリにより回答を求めた。具体的には、「子どもと過ごす時間をもっと増やしたいと思った」、「他の父親と交流することができた」、「父親の役割が分かった」、「子どもが育ちが分かった」、「子育ての悩みを共有することができた」、「子どもとの関わりに対して前向きな気持ちになった」、「子どもとの関わり方が分かった」、「家族と協力して子育てをしていきたいと思った」、「子育てに役立つ情報を得ることができた」、「子育ての不安が軽減した」、「子育てへの自信につながった」、「家事をもっと頑張りたいと思った」、「子育てへの意欲が高まった」の13項目と、「その他」のうち複数回答可で当てはまるものを選択する形式をとった。結果は表3のとおりであった。

第1回は、「子どもと過ごす時間をもっと増やしたいと思った」、「他の父親と交流することができた」が6名中3名(50%)であり、次いで、「子どもとの関わり方が分かった」、「家族と協力して子育てをしていきたいと思った」が6名中2名(33.3%)、「父親の役割が分かった」、「子どもとの関わりに対して前向きな気持ちになった」、「子育てに役立つ情報を得ることができた」、「子育てへの意識が高まった」が6名中1名(16.7%)であった。

第2回は、「子どもと過ごす時間をもっと増やしたいと思った」が8名中5名(62.5%)であり、次いで、「他

表3 講座終了後の気持ち

	第1回 (n=6)		第2回 (n=8)		第3回 (n=3)		第4回 (n=3)		
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	
子育て意識	父親の役割が分かった	1	16.7	0	0.0	1	33.3	0	0.0
	家族と協力して子育てをしていきたいと思った	2	33.3	3	37.5	3	100.0	2	66.7
	子育ての不安が軽減した	0	0.0	1	12.5	1	33.3	0	0.0
	子育てへの自信につながった	0	0.0	1	12.5	0	0.0	0	0.0
	家事をもっと頑張りたいと思った	0	0.0	0	0.0	1	33.3	1	33.3
	子育てへの意欲が高まった	1	16.7	1	12.5	1	33.3	2	66.7
子どもとの関わり	子どもと過ごす時間をもっと増やしたいと思った	3	50.0	5	62.5	3	100.0	1	33.3
	子どもの育ちが分かった	0	0.0	1	12.5	1	33.3	0	0.0
	子どもとの関わりに対して前向きな気持ちになった	1	16.7	0	0.0	1	33.3	0	0.0
	子どもとの関わり方が分かった	2	33.3	1	12.5	1	33.3	0	0.0
父親同士の交流	他の父親と交流することができた	3	50.0	4	50.0	1	33.3	0	0.0
	子育ての悩みを共有することができた	0	0.0	1	12.5	1	33.3	1	33.3
	子育てに役立つ情報を得ることができた	1	16.7	2	25.0	2	66.7	0	0.0

の父親と交流することができた」が8名中4名(50%)、「家族と協力して子育てをしていきたいと思った」が8名中3名(37.5%)、「子育てに役立つ情報を得ることができた」が8名中2名(25%)、「子どもの育ちが分かった」、「子育ての悩みを共有することができた」、「子どもとの関わり方が分かった」、「子育ての不安が軽減した」、「子育てへの自信につながった」、「子育てへの意識が高まった」が8名中1名(12.5%)であった。

第3回は、「子どもと過ごす時間をもっと増やしたいと思った」、「家族と協力して子育てをしていきたいと思った」が3名中3名(100%)であり、次いで、「子育てに役立つ情報を得ることができた」が3名中2名(66.7%)、「他の父親と交流することができた」、「父親の役割が分かった」、「子どもの育ちが分かった」、「子育ての悩みを共有することができた」、「子どもとの関わりに対して前向きな気持ちになった」、「子どもとの関わり方が分かった」、「子育ての不安が軽減した」、「家事をもっと頑張りたいと思った」、「子育てへの意識が高まった」が3名中1名(33.3%)であった。

第4回は、「家族と協力して子育てをしていきたいと思った」、「子育てへの意欲が高まった」が3名中2名(66.7%)であり、次いで、「子どもと過ごす時間をもっと増やしたいと思った」、「子育ての悩みを共有することができた」、「家事をもっと頑張りたいと思った」が3名中1名(33.3%)であった。

また、2回以上参加した人の回答を個別にみると、毎回同じ気持ちへの回答傾向があった。例えば、Aさんは「家族と協力して子育てをしていきたいと思った」、Hさんは「他の父親と交流することができた」、Jさんは「子どもとの関わり方が分かった」、Kさんは「子どもと過ごす(関わる)時間をもっと増やしたいと思った」と「家族と協力して子育てをしていき

いと思った」、Lさんは「子どもと過ごす(関わる)時間をもっと増やしたいと思った」と「他の父親と交流することができた」と「子育てへの意識が高まった」を毎回選ぶ結果が示された。

(4) 家庭における継続性

「今回の講座の内容を家庭などでやってみたいと思いますか」という問いに対して、「思う」から「思わない」の5段階を5点～1点とし、各回の平均を算出した。その結果、第1回は4.5点、第2回は4.6点、第3回は4点、第4回は4.3点であり、第2回のように道具のいらない活動は第3・4回のような材料の準備が必要な活動に比べると家庭での実践につながりやすいことが示された。

(5) 自由記述

自由記述からは「講座の回数を重ねたい」、「父親同士で話す時間をもっと欲しい」、「子育ての情報を共有したい」など講座への要望に加えて、父親同士の交流の機会を求める記述が多くあげられた。各回の具体的な記述を以下に示す。

①第1回

参加者6名のうち4名から記述が得られた。得られた自由記述内容は以下のとおりであった。

- ・とても良い時間を過ごすことができました。ありがとうございます。
- ・時間はかかると思うが、回数を重ね、みんなと会話ができるようになればいいな。
- ・1時間では、話すことが少なくなるので、もう少し(あと1時間くらい)時間があるとよい。
- ・楽しい時間でした。

②第2回

参加者8名のうち3名から記述が得られた。得ら

れた自由記述内容は以下のとおりであった。

- ・本人の社会性を高めるために、また出席させていただきたいと思います。
- ・皆様、おつかれ様でした！
- ・同じ境遇の父親と関わる機会を作って頂きありがとうございました。

③第3回

参加者3名のうち1名から記述が得られた。得られた自由記述内容は以下のとおりであった。

- ・今回父親講座を受講して息子に対する意識を変え
る良いきっかけになりました。
現在別のペアトレをオンラインで受講しておりますが、やはり地元だと小学校や近隣の情報を共有できますので、是非また機会があれば参加したいです。

④第4回

参加者3名のうち3名から記述が得られた。得られた自由記述内容は以下のとおりであった。

- ・学習の遅れがあるが、父親としてあまりサポートできていない。仕事も遅くまであるため…
- ・家庭で、父親と、料理というのが、タイミング（仕事、時間、子どもの気持ち等）がなかなか合わず大変でした。今回は母親と料理を作りましたが、次回は父親と作ってみたいと思います。
- ・コロナ禍で大変だったとは思いますが、できれば会場で調理をしたかったです。妻へリクエストも増えそうです。

2. 講座における参加者の様子

第1・2回では、他の父親が話した内容をメモする姿や、講座後に父親2名が残って話をする姿が見られ、父親同士の交流に非常に積極的であった。

第3・4回は、「意外に工作が好きなことがわかった」などの記述から、活動を通して子どもの新しい一面の発見した父親の姿が伺えた。一方で「子どもの気持ちを前向きにするのが大変だった」など家庭での実践の難しさを感じた父親の姿もあった。

以下に、各回の子どもの様子を示す。

(1) 第1回

第1回父親講座の会場に父親が集まり始めると、どの父親も他の参加者に挨拶はするものの、会話は続かず、講座開始まで静かで少し緊張した空気が流れた。第1回の「セミナー&パパの思いをシェアしよう」では、参加者のほとんどが初対面、もしくは顔や名前を知っているだけという関係であったため、主に自己紹介を行った。自己紹介では「我が家の自慢・子どもの自慢」、「私が目指す父親像」というテーマについて、

一度各自が文字に書き出した後、自分の思いを紹介するという場面があったが、参加者の中には、これらのテーマについてなかなか書き出せず、周りの様子をうかがう父親もいた。実際に自己紹介をする場面においても、誰から自己紹介をするか周りの様子をうかがう様子が見られた。しかし、いざ自己紹介が始まってしまえば、どの父親も自分の考えを発信し、自分や子どものことについて詳しく話していた。ほかの父親が話した内容をスマートフォンにメモする参加者もいた。

また、講座終了後にはこの日の講座で初めて会った父親2名が会場の外に残り、1時間程度個別に話をする姿が見られた。

(2) 第2回

第2回の「親子遊びワークショップ」では、父親と子どもが参加し、家庭でも実践できる道具不要の親子遊びをいくつか行った。最初は父親から離れたところにいた子どもも、父親の足の間を跳ぶ「足パカ」や「手押し相撲」等の身体を使った活動が始まると父親と一緒に参加する姿が見られた。子どもが活動を始めると、父親も子どもに笑顔で言葉を掛け、ハイタッチをする様子が見られるようになった。近くで活動をしている大学生や他の父親の言葉や関わり方をまねる様子も見られた。

中学生の参加者は、体格が父親と同じくらいであり、手押し相撲において父親と真剣勝負する姿が見られた。

また、親子遊び終了後には20分間程度の父親のみの座談会を行った。座談会では、第1回と同様に、最初はどの父親も様子を伺って話し始めなかったが、話題が出始めると、自分の経験談やアドバイスを積極的に話す姿が見られ、日ごろ感じている教育現場の課題や本音話も出た。加えて、他の父親の話やうなずきながら聞いたり、共感して話始めたりする姿も見られた。

(3) 第3回

先術のとおり、第3回の「クラフト」は各家庭での実践となった（図1・2）。アンケートで得られた家庭での実施の様子や印象的なエピソードを以下に示す。

- ・今回のクラフトは、やらないかもと思っていたけど、素直に作業にとりかかり、最後まで完成させてくれたので嬉しかったです。模様は意味不明ですけど、色づかいが明るくなっているので、気持ちが以前より明るくなってきたと思います。
- ・色をつけるよう促したが、しなかった（もともと絵を描くことが好きではない）。紙やすりを初めて使ったが、上手にできていてびっくりした。
- ・楽しそうに工作をしているのを見て意外に工作が好きなことがわかった。自ら積極的に取り組んでいたのも、今後レゴやプラモデルなどを作らせたいと思う。

これらの記述から「クラフト」では、子どもが活動を最後までやり遂げたことに喜びを感じたり、子どもの新しい一面を発見したりする父親の姿があったことが見受けられる。貯金箱を組み立てるだけでなく、絵の具で色を塗って個性的な貯金箱に仕上げた参加者もいた（図1・2）。

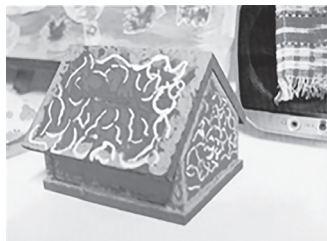


図1 第3回のクラフト活動例①



図2 第3回のクラフト活動例②

(4) 第4回

第4回の「クッキング」もクラフトと同様に各家庭で行われた（図3・4）。アンケートで得られた家庭での実施の様子や印象的なエピソードを以下に示す。

- ・本人は自分でメニューを決めたかったのを、レシピがあるのを優先させた。一度、機嫌をそこねると言うことを聞かない長男と料理をすることの難しさを感じた。
- ・途中でなげださなかった。家庭内で（他者もおらず）の料理だったので、いつも通りというか、気持ちを前向きにさせるのに大変だった。
- ・子どもはフルーツゼリーの白玉づくりに夢中になっていました。本当は三色丼の料理にもう少し関わってほしかったです。本当はもっと任せたかったのですが、思わず主体的にやってしまいました。

これらの記述から「クッキング」では、家庭内で子どものやる気をクッキングに向かわせることの難しさや、クッキングにおける役割分担の難しさを感じる参加者の姿があったことが見受けられる。それでも、郵送したレシピの材料を季節の野菜に変えたり、子どもの好きな食材を付け加えたりするなどの工夫を凝らしながら、料理を完成させた様子が見られた。



図3 第4回のクッキング活動例①



図4 第4回のクッキング活動例②

3. 座談会における父親の発言

第1回・第2回・父親講座前回終了後の父親の座談会等における発言からは、父親としての「子育ての悩み」「子供への思い」「父親同士への思い」「講座への要望」などが得られた。

以下に、各回の父親からの発言の詳細を示す。

(1) 第1回

自己紹介において、子育ての悩みや子どもへの思いなど父親が普段感じていることについての発言が得られた。まず、「子育ての悩み」に関しては、以下のような語りが得られた。

- ・よくないことをちゃんと注意できない
- ・息子に勉強をしてほしいが、伝え方が分からない
- ・自分ができることを子どもができないとすぐに怒ってしまう
- ・仕事が忙しい

次に、「子どもへの思い」については、以下のような語りが得られた。

- ・みんなの足を引っ張ることもあるが、いろんなことに挑戦してほしい
- ・息子が友達のように何でも話してくれたり、相談してくれたりするような関係になりたい
- ・コミュニケーションを大切にしたい
- ・子どもがやりたいと思ったことを、親が見本となって教えられるようになりたい
- ・お互いが嫌な気持ちにならずに、気持ちよく伝えることができるようになりたい
- ・仕事が忙しくても子どもにしっかり愛情を伝えたい
- ・大切に思っているということを子どもに理解してもらえように伝えていきたい

また、「他の父親に聞きたいこと」については、以下のような話題が上がった。

- ・ディスカッションをしたかった
- ・小学校とかこれからどうなっていくのか、先輩のお父さん方に聞きたい

(2) 第2回

20分間の座談会では、「講座の感想」や「講座に対する思い」、「他の父親に聞きたいこと」についての発言が得られた。まず、「講座の感想」については以下のような語りが得られた。

- ・普段友達と一緒に遊ぶ姿がなかなか見れないので、今日はその姿を見ることができて貴重な時間だった
- ・みんなで遊ぶことは大事だと思った
- ・自由に遊んでいる姿が見られてよかった
- ・子どもが朝来るのを嫌がっており、最初は人見知りをしていましたが、そのうち打ち解けてお姉さんとも遊び始めたのでよかった
- ・団体行動が苦手だけれど、ほかの子と一緒に仲良くしている姿を見て安心した
- ・人見知りだけれど、小さい子と関わることも大事

次に、「講座に対する思い」については、以下のような語りが得られた。

- ・また参加したい
- ・体を動かすことが好きなので、どんどん参加したい
- ・雪が降った時に屋内でできるのが良い
- ・雪の中でもこのように遊べる遊びは貴重
- ・このような集まりがもっとあってほしい
- ・年齢差がバラバラでよかった
- ・社会に出たら若い人と関わる機会もたくさんあるので、こういう機会も大切だし、こういう場で練習できたらいい

そして、「他の父親に聞きたいこと」については、以下のような話題が上がった。

- ・小学校について、支援学校・支援級・通級のどこに入れるべきなのか迷っている
- ・子どもが幼稚園の時に、先生と困り感や就学先について話すことができたか

どちらの話題についても、子どもの就学について先輩パパに聞く場となった。小学校選びに関しては、先輩パパから「積極的に学校に働きかけたほうが良い」、「子どもに聞いて本人の希望を聞くことは大事」など自分の経験に基づくアドバイスをする様子が見られた。また、就学前の保育者との連携については、「加配の人をつけてもらって、支援級か通級か考えた」、「相談所に回されて、小学校と話したほうが良いと言われたが、話が進まなかった」といった経験談の共有に加

え、「人手が足りていない」など教育現場の課題についての発言も得られた。

(3) 父親講座終了後

父親講座に3回参加した父親2名からは、「父親との交流の感想」、「講座に望むこと」についてmの発言が得られた。まず、「父親との交流の感想」については以下のような語りが得られた。

- ・父親講座で父親の皆さんもいろいろ悩んでここに来られてて、お話しできたのはよかった
- ・他のお父さんと話をする機会があったというところが非常に良かった
- ・自分だけじゃないんだなと思った
- ・他の親御さん見てて、皆さんもお子さんに積極的に関わっておられるので、そういうところも刺激になった
- ・大学での父親講座がきっかけとなり、ほかの講座やペアトレにも参加するようになった

次に、「講座に望むこと」については、以下のような語りが得られた。

- ・もっとほかの父親と話したい
- ・2回目に息子連れて交流(20分程度)があったと思うんですけど、もうすこし親御さんとの話はしたかった
- ・回数を重ねることでさらに深い話をしたい
- ・子どもとの接し方のアドバイスが知りたい
- ・発達障害の特性について、講座で学びたい
- ・父親同士の交流を深めたい
- ・子どもと関わる活動もしたい
- ・障害のある子どもとその兄弟への障害の伝え方について知るプログラムがあるとよい
- ・子どもの年齢が異なる先輩パパから、小学校や中学校の情報を聞きたい
- ・地域や年代が限定されない方が知人に会う確率が低くて参加しやすい
- ・思春期の子どもが悩みを相談できる、本音を話せる場があるとよい
- ・子ども本人が障害について知る場があるとよい

父親同士の交流では、子どもの就学についてそれぞれが経験談やアドバイスを話し、悩みや情報の共有をする場となった。また、複数の父親から「このような集まりがもっとあってほしい」、「また参加したい」という声上がり、子育て支援講座の必要感や、参加意欲の高さが示された。

V. 総合考察

1. 「父親講座」の効果

(1) 自分の子育てについて考えるきっかけとなる父親同士の交流

「父親講座」を通して、父親の子育て意識が大きく

変わるまでには至らないが、子どもとの関わりや父親同士の交流に対して前向きな気持ちが生まれたのではないかと考える。活動を通して子どもの新しい側面を発見したり、他の父親が子どもと関わる姿を見て刺激を受けたりと、「父親講座」という場が子育てについて考えるきっかけになったのではないだろうか。さらに、「父親講座」への参加を機に妻の負担の大きさに気付き、妻ばかりに負担がかからないよう、情報を共有し合うようになった参加者もあり、子どもとの関わりや父親同士の交流の変化だけでなく、夫婦や家族関係への影響もうかがえた。

また、「父親講座」における父親同士の交流によって、父親が普段抱える孤独感が軽減し、子育てへのモチベーションの向上につながったと考えられる。父親の発言からも、同じ境遇にある他の父親の存在が、子育てに悩む父親の心の支えとなっていることが示された。他の父親と交流し、「自分と同じように頑張っている人がいる」、「自分と同じ悩みを抱えている人がいる」と感じることは、その後の子育ての活力や意欲につながるのではないかと考えられる。加えて、それまで一人で抱えていた悩みを「父親講座」で他の父親に打ち明け、アドバイスをもらったり共感してもらったりすることで、心に余裕ができ、子育てを楽しもうという気持ちが生まれるのではないだろうか。

2. 今後の子育て支援講座のあり方

(1) ニーズや条件に応じた講座の実施

調査を通して、障害のある子どもをもつ父親が抱える問題は、子どもの将来やきょうだい関係、本人の障害理解など様々であることが分かった。また、それらの問題はとてもデリケートなものであることから、父親のニーズに合わせて子育て支援講座を行う地域や子どもの年齢について考慮する必要があると考えられる。参加者の居住地域を限定することには、地元の学校の情報を共有できるというメリットもあれば、講座で知り合いに会って気まずい思いをするという可能性もある。また、参加する子どもの年齢を合わせることは、父親同士がより近い悩みを相談できるというメリットがある一方で、就学や将来について先輩である父親に相談できないというデメリットもある。そのため、父親のニーズに応じて参加者の条件設定を慎重に行うことが重要である。

(2) 話しやすい環境づくりや話題提供の必要性

父親同士の交流の場に関しては、同じ空間に集まっ

た父親同士が世間話をして盛り上がる様子はなく、座談会が始まってからも参加者たちは周りの様子を伺いしばらく沈黙が続く場面もあった。しかし、誰かが話を切り出す、あるいは話題が提供されると参加者は次々と自らの体験談や意見を述べるようになった。このことから、男性が対象となる子育て支援講座においては、参加者が話し始めるきっかけや話題を提供することが効果的であると考えられる。

(3) 継続的な実施

さらに、父親のアンケートや座談会における語りに「父親同士で話す時間をもっと欲しい」、「回数を重ねて他の父親との交流を深めたい」という声があったことから、父親が子育て支援講座の継続を望んでいることが読み取れる。今回の「父親講座」は全4回のプログラムであり、第3・4回については新型コロナウイルスの拡大により対面での実施が実現しなかった。講座回数の少なさと各家庭での実施になったことが、父親の家庭における大きな変容や講座外での父親同士の交流が見られなかった要因であると考えられる。

今後、父親の学びや父親同士の交流を講座の中で完結させず、家庭や講座外につなげていくためには、子育て支援講座を継続し回数を重ねていくことが重要であると考えられる。

V. 謝辞

本研究において、ご理解とご協力をいただきましたT県内の放課後等デイサービスの職員の皆様、回答にご協力いただきました保護者の皆様に心より感謝を申し上げます。

引用・参考文献

- ・趙碩 (2017): 日本における父親教育に関する研究の動向, 学習開発研究, 10, 133-141.
- ・デッカー清美・丸山昭子 (2015): 父親認識に関する文献研究, 日本農村医学会雑誌, 64(4), 718-724.
- ・藤井未紗子・青木香保里 (2012): 障害児育児における父親の役割—家庭科における障害者—, 愛知教育大学家政教育講座研究紀要, 42, 99-114.
- ・冬木春子 (2006): 少子化対策における「父親支援策」—自治体による「父親教室」に着目して—, 静岡大学教育学部研究報告 (人文・社会科学篇), 57, 91-106.
- ・小島未生・田中真理 (2007): 障害児の父親の育児行為に対する母親の認識と育児感情に関する調査研

- 究, 特殊教育学研究, 44(5), 291-299.
- 小山里織・島谷康司・鳩野愛・森山雅子 (2017): 父親の育児支援プログラムの確立を目指した育児講座の提案, 県立広島大学保健福祉学部誌, 17(1), 23-29.
 - 内閣府 (1992): 男女平等に関する世論調査. (最終閲覧日 :2021/02/02)
<https://survey.gov-online.go.jp/h04/H04-11-04-11.html>
 - 内閣府 (2014): 女性の活躍推進に関する世論調査. (最終閲覧日 :2021/02/02)
<https://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-joseikatsuyaku/gairyaku.pdf>
 - 内閣府 (2019): 男女共同参画社会に関する世論調査. (最終閲覧日 :2021/02/02)
<https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-danjo/gairyaku.pdf>
 - 清水里美・馬見塚珠生・吉島紀江 (2012): 効果的な子育て支援のあり方—父親グループへのペアレントトレーニングプログラム適用の試み—, 明治安田こころの健康財団研究助成論文集, 48, 121 - 130.
 - 吉岡亜希子 (2009): 子育て講座における父親の学習過程と意識変容—さっぽろ子育てネットワークの取り組みを事例に—, 北海道大学大学院教育学研究院紀要, 107, 179-193.